

しまねっ湖



アイゴ *Siganus fuscescens*

CONTENTS

- 特集・冬の特別展…………… 2～3
- ゴビウスのなかまたち…………… 4
- 水辺紀行/シャッターチャンス…………… 5
- みんなでたのしむ生きものガイド…………… 6
- こらまたなんたら! /表紙の生きもの…………… 7
- イベント報告/インフォメーション…………… 8





これみて!きいて! 飼育係イチオシの生きもの

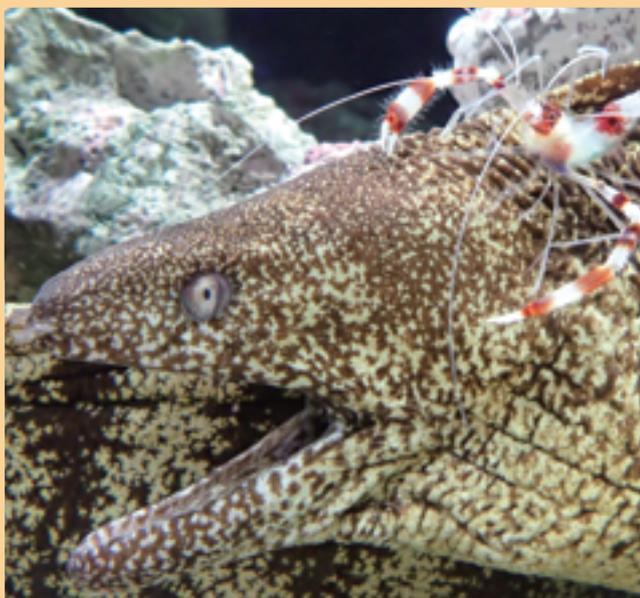
開催期間 2022 11/23(水)~2023 1/16(月)

今回の特別展では、ゴビウスで働く飼育係6名がそれぞれの切り口でイチオシの生きものをエピソードとともに紹介します。子どもの頃、生きもの好きになるきっかけになった生きものや、はじめて飼育したり、繁殖させた思い出の生きもの、面白い生態や行動をもつ生きものなど、ゴビウス飼育係が絶対おすすめしたい「これみて!きいて!」が盛りだくさんな特別展です。

ちょっとこれみて!きいて!

ゴビウスの展示は、入社1年目の新人スタッフから20年以上勤務するベテランスタッフまで、みんなで作りあげています。そんな飼育係のイチオシの生きものをちょっとだけご紹介。

ウツボとエビの共生



小学生の頃、水族館で「海のギャング」と恐れられるウツボと小さなエビが同じ水槽に展示されているのを見ました。小さなエビは、あろうことかウツボの口の中に入ったり、背中と岩を行ったりきたりしていました。2種の共生関係を知り、さらに生きものに興味を持ちました。

(飼育歴2年目のOK)

ほんとにカエル!? マルメタピオカガエル



小さな目と大きな口、ずんぐりむっくりとした体をしていて「本当にカエル?」というのが第一印象。独特な見た目と鳴き声を持つ魅力的なマルメタピオカガエルと出会えたお陰で、私はカエル好きになりました。カエルが苦手という方に、少しでもこの魅力を伝えたいです。

(飼育歴1年目のHI)

味よし!姿よし! 「小伊津のアマダイ」



出雲市小伊津町は、アカアマダイの産地として有名です。生きたアカアマダイを初めて見たとき、あまりの美しさに感動しました。深い海にくらしているため、状態よく収集するのが難しい魚ですが、鮮やかな桜色をした姿は見応えがありますよ。

(飼育歴20年目TT)

熱帯魚の王様「ディスカス」と繁殖



ディスカスは、専門学校の水槽ではじめて繁殖に挑戦した魚で、産卵したときはとてもうれしく、今でもそのときのことをよく覚えています。そこで得た経験が水族館の仕事に活かされており、現在は絶滅のおそれある生きものの繁殖にも携わっています。

(飼育歴6年目のMK)

魚のお医者さん？ ガラ・ルファ



別名「ドクターフィッシュ」とも呼ばれます。水槽内に手を入れて角質を食べてもらう体験をはじめたとき、手に一斉に集まる光景がとても面白く、衝撃を受けました。痛みはなく、どちらかというくとくすぐたく、気持ちいい感じでした。

(飼育歴2年目MC)

無重力遊泳！？クマガムシ



体長3.5ミリほどの小さな水生昆虫。丸い体型からは想像できない泳ぎ方がイチオシポイント！背泳ぎで水中を縦横無尽にふわふわと移動し、まるで無重力遊泳です！また、その観察がきっかけで繁殖や研究にも取り組み、さらに面白い生態を観察することもできました。

(飼育歴14年目KT)

ここでは紹介しきれない飼育係のイチオシの生きものも展示するよ！



飼育係の仕事

調査研究

調査研究も飼育係の仕事のひとつです。野外調査や水槽内で飼育をしていると、これまで知られていない新しい発見をする機会があります。今回の特別展では、調査研究の取り組みについても紹介します。

繁殖

ゴビウスでは、島根県内の絶滅のおそれのある水辺の生きものや、水槽内での繁殖方法がわかっていない生きものをどうやったら上手く繁殖させることができるのか、展示をしながら調べています。また、増やした生きものを展示して、自然界への負荷をできるだけ与えない展示にも心がけています。

(桑原友春)



特別展関連イベント

これみて！きいて！飼育係とっておきの話

飼育係それぞれがイチオシの生きものについてお話しします。

特別展期間中の **土曜、日曜、祝日**
開催時間 13:30～ (約15分程度)



※画像はイメージで実際とは異なる場合があります。また配布物は数に限りがあります。

※展示生物は予告なく変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

じゃんけんカード

どんなカードがお楽しみに！
集めてあそんでね♪



入館時、受付にて配布

全6種類！

展示ガイドブック

特別展の生きものの解説、
ゴビウス飼育係の仕事を紹介します。



特別展会場にて配布



ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま シラウオ

シラウオは、宍道湖七珍のひとつとして知られており、まさに宍道湖を代表する魚です。透明な体が、光に反射すると虹色に光り、まるでガラス細工のようにキラキラと美しく輝くのが特徴です。その綺麗な姿から、「泳ぐ宝石」とも呼ばれます。

泳いでいるシラウオを観察していると、お腹がオレンジ色になっていることがあります。これは、エサとして与えている、動物プランクトンのアルテミアが透けて見えているためです。体全体が透明なので、食べたエサの色をそのまま見ることができます。私たち飼育スタッフは、お腹の色で、毎日しっかりエサを食べているか確認しています。

七珍のひとつとして挙げられているシラウオですが、近年は個体数の減少により、宍道湖でもなかなか見ることのできない存在になってしまいました。実は、一年を通してシラウオを展示している水族館は、全国でもゴビウスだけです。飼育スタッフは、シラウオを常にお客様に見ていただきたいと思い、卵からふ化させた仔魚を育てています。小さく、

うろこがない繊細なシラウオを育てるのは難しく、展示水槽にデビューできるまでは、とても長い期間を要します。ですから、現在展示しているシラウオたちは、飼育スタッフが育てた努力の結晶のようなものです。

また、冬の期間限定ですが、スーパーマーケットで、宍道湖で漁獲されたシラウオが並べられていることがあります。卵とじや天ぷらなどにして食され、独特な苦みが、他の魚とはまた違った味わいです。

鑑賞しても、食しても魅力たっぷりのシラウオにぜひ注目してみてください。

(松本千優)



アルテミアを食べたシラウオ

淡水のなかま ナマズ

「川のなかまたち」コーナーに入っすぐ左手の37番水槽に、ナマズを展示しています。宍道湖の漁師の方から寄贈していただいた個体で、今年の3月から飼育しているゴビウスの新入りです。体が大きく、ドーンと水槽の真ん中にある姿は、子どもたちに大人気です。日本には、4種類のナマズが分布しており、そのうちの2種類は琵琶湖・淀川水系だけに分布しています。ナマズの「ナマ」はなめらかさを、「ズ」は頭をそれぞれ意味すると言われていました。つまり、体がなめらかな、頭の大きな魚というわけです。

ナマズは夜行性のため、昼間は水槽内でじっとしています。ゴビウスのナマズはなぜか背中をこちらに向けていることが多いため、お客様が「こっちむいて〜」「動いて〜」と話しかけているのを聞くことがあります。飼育スタッフもお客様にナマズの顔を見てもらおうと、水槽のレイアウトを変えたりなどの工夫をしますが、なかなかうまくいきません。ですが、一日のうち一回、必ず動いてくれる瞬間が

あります。それは、夕方のエサの時間です。この時間になると、迫力のある肉食魚の一面を見ることができます。大きな口で、口に入るものはなんでも食べてしまいます。また、口ひげを巧みに使い、エサを探す姿も見せてくれます。口ひげにはセンサーの役割があり、エサを探すだけでなく、自然界では敵との距離を測ることに使われています。昼と夕方（夜）で全く違う姿を見せてくれる魅力たっぷりのナマズから目が離せません！

(原いつき)



水槽でじっとしているナマズ

しまねの水辺紀行 ⑬ 防波堤の生きものたち

防波堤のすぐ下をのぞいたことはありますか。防波堤は、港や海岸などにあり、湾内を穏やかに保ち、大きな波から船などを守る役割を担っています。そのため、意外に多くの生きものたちがひっそりとくらしています。

夏の終わり、涼しくなったところを見計らって、近くの港にある防波堤に出かけました。まだ、海で泳ぐ子どもたちがいたり、大物を狙う釣り人の姿があったので、邪魔をしないように観察スポットへ向かいました。

この時期、多くの生きものたちが活発に動き出します。その多くは、初夏に生まれた幼魚たちで、その中でもよく見かけるのがフグのなかまです。行ったり来たりを繰り返すクサフグやずっとエサをさがしていろいろなものをつつくカワハギを見ることができます。釣りをする際には、邪魔されてばかりでうんざりしてしまう魚たちですが、そんな姿を見るとかわいく思ってしまうかもしれません。他にも、夏は海水浴場にもなる浅い砂浜の小さな防波堤には、メジナの幼魚が群れで泳いでいた



メジナの群れ

り、運の良い日はコチのなかまの幼魚まで観察することができず。普段見る魚でも、幼魚を見られたとなると興奮してしまうのですが、それは私だけでしょうか。

また、時間をずらして同じ場所を訪れると面白い発見をすることもできます。例えば、浅い砂浜の防波堤は、昼間はあまり見られなかったクサフグたちが、夕方となると数十匹ほど集まって砂の中に潜り、目だけを出してじっとしている様子が見られることです。規則正しい魚たちの生活リズムを垣間見ることができます。



砂に潜っているクサフグ

みなさんも機会があれば観察してみてください。ただ、立ち入り禁止の場所や、海の状態により危険な時もありますので、場所や天気を調べてから行くことをおすすめします。

(逢坂香織)

シャッターチャンス!

ある日、館内をまわっていたときのことです。22番水槽にいる小さなボラたちが、エサを探して、底の砂を口に入れては、吐き出す行動を繰り返していました。水中を細かな砂が落ちていく様子は、何となく粉雪が舞っているようにも見えました。

(田久和剛史)



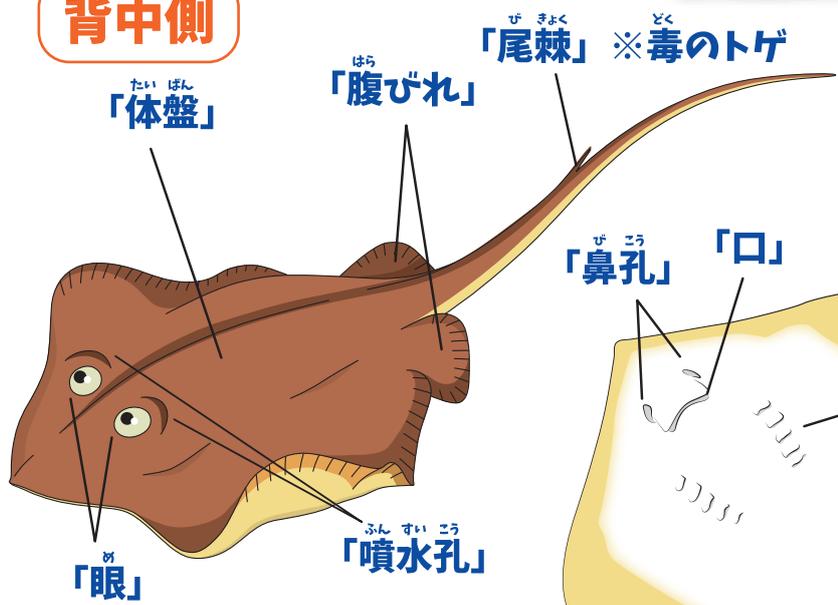


アカエイのひみつ

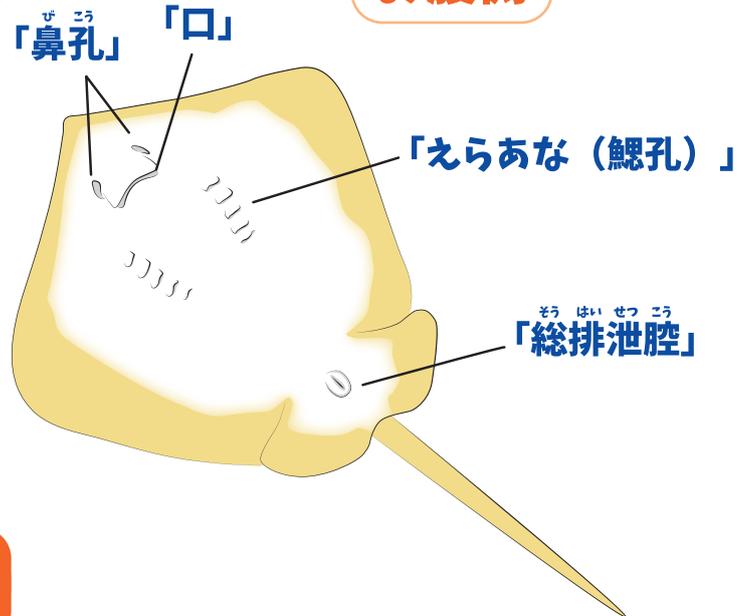
● **なまえ：アカエイ**
生息地：北海道から九州南岸までの瀬戸内海を含む沿岸域など
 平たいひし形の体をしていて、長い尾をもちます。尾には、尾棘と呼ばれる毒のトゲをもち、刺されるとたいへん痛みます。おもに中海で見られますが、宍道湖に入ってくることもあります。

体のつくり

背中側

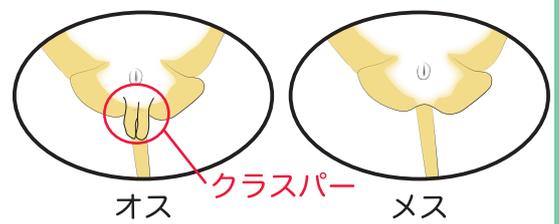


お腹側



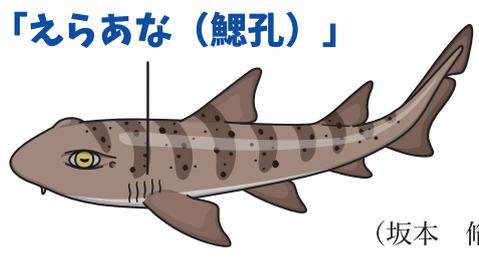
オスとメスの違い

アカエイをはじめとするエイのなかまは、クラスパーと呼ばれる交接器の有無で、オスとメスを簡単に見分けることができます。



エイとサメの違い

エイとサメの姿は、まるで違うようにみえますが、実は同じグループに属するなかまで、えらあなの位置によって区別されます。体の下にあるのがエイのなかま、体の側面にあるのがサメのなかまです。



こらまたなんだら! 其の二十九 水をあやつる

水族館では、日々、膨大な量の水を使いますが、この水を、いかに上手に扱うかが、生きものたちの健康に大きくかかわっています。温度や塩分、酸素の量など、水質はもちろん、それと同じくらい大切なのが「水の動き」です。例えば、クラゲ類はゆったりと弱く、軟かいタイプのサンゴ類は激流のように強く、といったように、飼育する生きもの種類にあわせて、水の動きを変えなければなりません。さらに、同じ水槽の中でも、水を出す位置や数、方向、強さなどによって、生きものたちの居心地の良い場所と、悪い場所ができてしまいます。飼育スタッフの腕の見せどころは「生きものにとって一番居心地の良い場所」＝「お客様からよく見える場所」にすることなのですが、これがなかなか難しく、何度も何度も調整しながら、ベストポジションに誘導していきます。

話は変わって、今から300年以上前、出雲平野西部の荒地を耕作地にするため、斐伊川から水を引き込んだ水路（高瀬川）が開削されました。暴れ川として知られていた斐伊川からの取水は困難を極めました。最終的に、最も水の力がかかる部分に強度を持たせるため、隣接する岩山を掘り抜いて「岩樋」が造られました。さらにその後、天井川である斐伊川と高瀬川のあいだを、舟でも往来できるよう、水位調整のための3段式ゲートを加える改良もなされています。

この来原岩樋は、2014年に土木遺産として認定され、現在でもその一部を見ることができます。削られた岩壁の下を勢いよく流れる水を眺めていると、この大工事に携わった多くの人たちの「水との戦い」の歴

史を思い浮かべずにはいられません。壮大なスケールの斐伊川とは比べものになりませんが、小さな水槽の中でも、水の動きをうまくコントロールできた時は、やはり嬉しいものです。

(中畑勝見)



斐伊川（奥側）からの水が流れ込む来原岩樋



岩樋（矢印）から取り込まれた水はこの貯水池から高瀬川と間府川に向かう

表紙の生きもの アイゴ *Siganus fuscescens*

全長30センチ程度になり、オリーブ色の体に青色の眼が印象的です。背びれ、腹びれ、しりびれのトゲには毒があり、刺されるとたいへん痛みます。そのため、多くの釣り人に嫌われていますが、実は食べると美味しい魚です。雑食性で甲殻類のなかまから海藻なども食べます。水族館では、海藻の代わりに葉物野菜を与えることもあります。

日本海沿岸の磯場や中海では、8月頃になると全長2センチぐらいのアイゴの幼魚が見られ、ときには大きな群れを作ることがあります。

(森永和希)



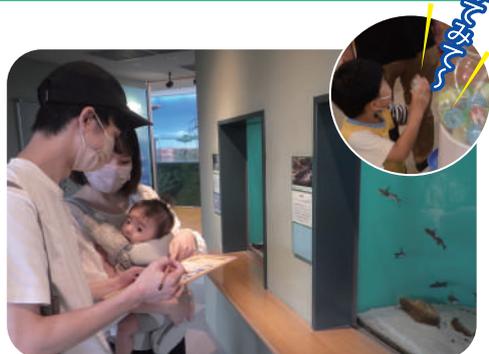
アイゴの群れ

イベント報告

～「ゴビウスなぞなぞクイズラリー」編～

9月17日・18日（19日は台風14号接近のための臨時休館で実施せず）、23日～25日に、「ゴビウスなぞなぞクイズラリー」を開催しました。難易度高めのなぞなぞに苦戦されながらも、ご家族やお友達で協力して楽しんでいただきました。正解者には、カプセルトイでプレゼントを引いてもらいました。なぞなぞのこたえの生きものの缶バッジがあたると、「コノシロだ!」、「ギギだよ!」と喜ばれる様子がとても微笑ましく、こちらも嬉しくなりました。

(大山淳子)



ゴビウス生きもの観察会に参加しませんか?

ゴビウスでは毎月1回、生きものをテーマに観察会を開催しているよ!



1/22 日曜日 10:00～11:30

受付開始 **1/8**

お手軽! にぼしの解剖教室!

にぼしのお腹のなかはどうなっているの? 骨はどんなふうについている? ドキドキしながら解剖しよう!

2/12 日曜日 10:00～11:30

受付開始 **1/29**

ヘビ・カメ・カエルを観察してみよう!

ヘビ、カメ、カエルを実際に観察してみよう。体のひみつも紹介するよ! エサを食べる瞬間が見られるかも!?

3/12 日曜日 10:00～11:30

受付開始 **2/26**

紙粘土で生きものを作ろう!

紙粘土をつかって、生きものを作ってみよう。君はかわいい派!? かっこいい派!?

※定員になり次第締め切りとさせていただきます。
 ※各観察会についての詳細は各観察会チラシでご確認ください。
 ※観察会情報はホームページでもご覧いただけます。
 ※団体でのお申し込みはご遠慮ください。
 ※ご友人等による代理でのお申し込みはご遠慮ください。

定員 申込先着**30**名程度

対象 どなたでも
(小学生以下は保護者の参加も必要)

「ゴビウス生きもの観察会」
 はWEBにてお申し込み
 下さい。

ホームページにある観察会予約ページから
 お申し込みください。
 お申し込みは開催2週間前の9時30分からです。



新型コロナウイルス感染拡大予防のため、県の対応方針に伴いイベント等が中止になることがあります。ご来館の際は、ホームページにて最新情報をご確認いただきますようお願いいたします。

ご来館案内

- 入館料/大人…500円(400円)
小中高生…200円(160円)
※()内は団体20名様以上の料金
- 年間パスポート/大人…1,400円
小中高生…500円
ご家族で同時にご購入いただくと2割引になります。
大人1,120円、小中高生400円。
※割引の適用は同居のご家族に限ります。他の割引との併用不可。
- 開館時間/9:30～17:00(最終入館は16:30)
- 休館日/火曜日、年末(12月28日～12月31日)
※火曜日が祝日の場合は、その翌平日が休館日となります。

みなさんのご来館
 お待ちしております。



- 一畑電車湖遊館新駅より徒歩10分
- 山陰道穴道インターより車で15分
- 出雲空港より車で10分
- 駐車場/100台(無料・トイレ完備)

ゴビウスニュースレターしまねっ湖 No.75

発行日/2022年12月10日
 発行/島根県立穴道湖自然館ゴビウス(管理運営:ホシザキグリーン財団)
 〒691-0076 島根県出雲市園町1659-5
 TEL 0853-63-7100 FAX 0853-63-7101
 URL www.gobius.jp/ E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示
 氏名または名称:公益財団法人ホシザキグリーン財団
 事業所の名称:島根県立穴道湖自然館
 動物取扱業の種類:展示
 登録番号:第073102040号
 登録年月日:2007年5月17日
 登録有効期限:2027年5月16日
 取扱責任者:桑原友春



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用

本誌は地球環境に優しい
 植物油インキを使用して
 おります。



植物油インキは、大気汚染の原因となる
 VOC(揮発性有機溶剤)の削減および
 再生紙処理の優位性が高い成分です。